

## ジャンルトップ戦略とは

—第 11 回全国模擬授業大会プレイベントで考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：ジャントトップ戦略とは何ですか。

A：(1)5月28日(土)に、開倫塾主催の第11回全国模擬授業大会のプレイベントと、栃木県生産性本部の第2回栃木県サービス産業活性化・生産性向上委員会を兼ねた講演会で、私が紹介させて頂いた、企業や団体としての生き残り戦略です。

(2)この「ジャンルトップ戦略」は、コニカミノルタ取締役会議長の松下正年氏が、「傍流革命—変化をつくり出せ—」東洋経済新報社2015年7月23日刊で主張なさった考え方です。

(3)「ジャンルトップ戦略」とは「成長が見込める領域や勝算のある領域を特定し、その領域にリソースを集中し、戦略的提携やM&Aも活用し、迅速に行動することで、トップポジションを狙おうとする戦略」のことです。(同著、63ページより引用)

Q：「ジャンルトップ戦略」はどのような企業や団体に向いているとお考えですか。

A：(1)市場での地位が、1位、2位ではなくて、3位以下のごくふつうの企業や団体が生き残りを図る競争戦略として前向きの取り組みと考えます。

(2)少子高齢化と、一向におさまりそうにないデフレによる買い控え、厳しい値下げ競争の中で、どのような企業や団体も生存を図らなければなりません。企業は、昨年のように今年があり、今年のように来年があると思っていれば、再来年が来ることはない、「企業は原則倒産」とさえいわれています。そこで、力を合わせ、知恵を振り絞って、何としても生き残りを図らなければなりません。

(3)では、「ジャンルトップ戦略」はどんな企業や団体に向いているかと問われれば、何としても生き残りを図らなければならない、市場での地位が1位、2位ではない、3位以下のごく普通の企業や団体といわざるを得ません。

(4)コニカミノルタはカラー複合機と陸上の長距離種目でジャンルトップを目指し、ニューイヤ—駅伝で毎年のように優勝し続けています。

Q：例えばどういうことですか。開倫塾を例に説明してください。

A：(1)開倫塾は、日本経営品質賞を目指しておりますので、企業としての基本理念(共通する価値観)として、社員重視を掲げています。この社員重視への具体的な取り組みの1つとして、2016年度より開倫塾で働く社員の健康を大切にする「健康経営企業」を目指すことにいたしました。

(2)企業の生存を決定するのは、社員の健康でもあります。そこで、開倫塾は健康経営企業という分野、ジャンルで、開倫塾を展開する北関東(栃木県、群馬県、茨城県)という地域で No1

の企業を目指したく考えます。

- (3)具体的には、まずは「定期健康診断」の全員受診と、診断結果の積極的な活用を目指しています。要検査や要検査予備軍と思われる方々は、専門家との健康相談や産業医からのアドバイスを活用して頂きたく思います。
- (4)定期健康診断のデータ分析の結果を踏まえ、産業医や医療関係者から病気や健康についてのお話を聞く「健康ライフを考える会」を定期的に開催しています。その第1回目は5月に実施。
- (5)2016年度からは、以前行い好評であった歯科健診を復活、毎年1回行います。全社員の歯の健康増進とデンタル・リテラシーの向上に励みたく存じます。
- (6)現在、北関東3県は入手不足の極致ですので、「健康経営企業」という分野、ジャンルでのトップを目指すことで、全社員の健康増進を図ると同時に、一人でも多くの社員のリテンションと採用活動を行い、企業としての生存を図りたいと考えています。

**Q：開倫塾では、「健康経営企業」以外にジャンルトップを狙っている分野がありますか。**

- A：(1)書ききれないほどたくさんあります。例えば、開倫塾では、英語検定や漢字検定、数学・算数検定の3つの検定を「3大検定」と名づけ、3大検定の分野、ジャンルで、北関東3県、各々の地域でトップを目指すにはどうしたらよいかを考えています。
- (2)お陰様で、2015年度は3つの検定とも1年間の合格者が1000名以上となり、合計で4000名に迫ってきました。今後は、合格者を毎年1000名ずつ増やし、いつの日にか1万名の合格者を出したいものだと作戦を練っております。
- (3)ドッジボールの普及活動でも、ジャンルトップを目指しています。

**Q：「ジャンルトップ戦略」という観点で、学習塾、予備校、私立学校の先生方に御提案したいことは何ですか。**

- A：(1)我々のような民間教育機関こそ、規模の大小に関係なく、思い切り取り組めるのが「ジャンルトップ戦略」だと思いますので、十分に御研究頂き、最大活用をお図り頂きたく存じます。
- (2)例えば、先ほどの社員の健康への取り組みについても、歯科を含む健康診断や講演会以外にも、もっともっと優れた取り組みはたくさん考えられるのではないかと思います。
- (3)また、3大検定でも、中3生のほぼ全員が各検定の3級以上の合格を果たし、高3生のほぼ全員が各検定の2級以上の合格を果たすことができれば、その塾や学校はダントツトップになれます。
- (4)これこそ、我が塾、我が学校で是非取り組みたいという分野、ジャンルがあつたら、生き残り、生存を懸けてその地域でのトップを目指すことは素晴らしい戦略といえます。
- (5)例えば、「論語」、「孟子」、「大学」、「中庸」の「四書」の「素読」という分野でダントツトップを目指すのも素晴らしい戦略と考えます。
- (6)NIE（新聞を教育へ）、新聞の活用の分野、ジャンルで地域No1を目指すのも素晴らしい。
- (7)「自己学習能力の育成」、つまり「自ら学ぶ力」という意味での学力向上の分野でダントツトップを目指すことは、新学習指導要領に示される新しい学力観の先取りといえます。
- (8)英語4技能について、A0 → A1 → A2 → B1 → B2 → C1 → C2 というレベルに応じて共通学

習参照枠や Can Do リストを活用して英語指導の分野、ジャンルで、ダントツトップを目指す先生や学校が増えれば増えるほど、日本の英語教育の発展に繋がります。

(9)開倫塾の本校のある足利市は、働く人の自主性を尊重する「5S 活動」(整理、清掃、整頓、清潔、躰)のメッカのような街で、国内外からの視察がたえません。足利商工会議所の「足利 5S 学校」では、5S インストラクターの育成や相互視察がさかんに行われております。開倫塾でも、本部事務所と全 60 校舎で、「開倫 5S 学校」を開設しています。顧客である塾生・保護者・地域社会の皆様、ビジネスパートナーや社員の皆様への「5S」の取り組み支援という分野、ジャンルでトップを目指したいと思います。

(10)このように、ジャンルトップ戦略は、学習塾や予備校、私立学校に最適な生き残り戦略、競争戦略と確信します。是非、御研究頂き、チャレンジ精神をもって少しずつでも実行して頂きたく御提言いたします。

Q:「ジャンルトップ戦略」、なかなかおもしろそうですね。初めてお聞きしますが、林さんがいつも読んでいる雑誌は何ですか。

A: (1)月刊誌は総合雑誌の「選択」と、日本リテリングセンター(ペガサスクラブ)の「経営情報」を毎月読んでいます。週刊誌は英語経済誌の「The Economist」(エコノミスト)です。2か月に1回刊行の「Foreign Affairs」(フォーリン アフェアーズ)も読んでいます。4つともちょっと難しいですが、とても興味深いテーマばかりなので、発売日が楽しみです。

(2)漫画は毎月2回、5日と20日に発売の「ビック・コミック・オリジナル」を30年来欠かさず読んでいます。「浮浪(はぐれ)雲」の作者は足利市出身の先輩ですし、ゴルフがテーマの坂田信弘氏作の「風の大地」は鹿沼市、高校野球がテーマのテリー山本氏作画の「ナツカン」は宇都宮市が舞台です。弘兼憲史氏の「黄昏流星群」の6月20日号は、足利市と宇都宮市が舞台でした。栃木県民として1号も見逃せません。

(3)今月、是非、皆様にお勧めしたい一冊目は投資銀行家、ぐっちーさん著「日本経済世界最強論」東邦出版2016年2月4日刊です。よく考えれば、このような考えもあると納得することばかりです。とにかくこれくらい前向きな日本論、日本人論はあまり読んだことがありません。

(4)二冊目は、ロバート・E・ライタン編著「成長戦略論、イノベーションのための法と経済学」NTT出版2016年3月1日刊。納税者のさらなる支出や財政赤字のさらなる拡大なしに、成長という目的を達成するためのロードマップが提供されています。読んでいるとどんどん自信が出て、元気になる本です。

(5)三冊目は、日本のキャリア教育の第一人者、神戸大学の金井壽宏(としひろ)先生著の「働くみんなのモチベーション論」日経ビジネス文庫、日本経済新聞出版社2016年5月2日刊です。とてもわかりやすい本ですので、スラスラ読めます。

自分自身とスタッフの皆様のモチベーションアップのために、是非、御一読を。

— 2016年6月9日(木)記—